

飛騨高山とは

木工芸術スクールのある高山市は、日本で最も広い市で、面積の90%以上を森林が占めています。キャンプ・スノースポーツ・溪流釣り・登山など、豊かな自然を生かしたアウトドアが身近に楽しめることから、木工を生業として飛騨高山に移住してくる人も沢山います。



また高山市街地には、江戸時代の城下町「古い町並み」が保全され、当時の面影を残す商家群や寺院群が建ち並ぶその景観は「飛騨の小京都」と呼ばれています。春夏秋冬それぞれの風情があり、国内のみならず海外からも人気の観光地となっており、特に日本三大美祭の1つでユネスコ無形文化遺産「高山祭」の時期には、大変多くの観光客で賑わいます。



飛騨の家具とは

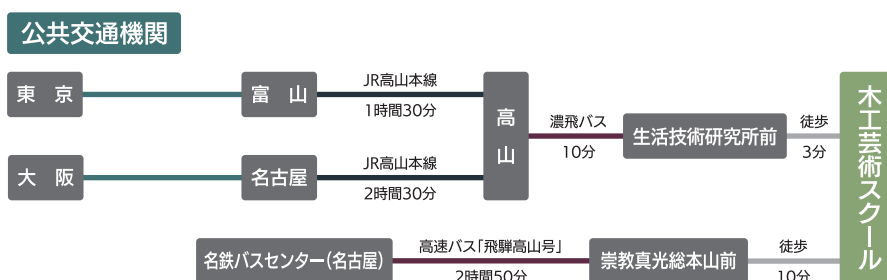
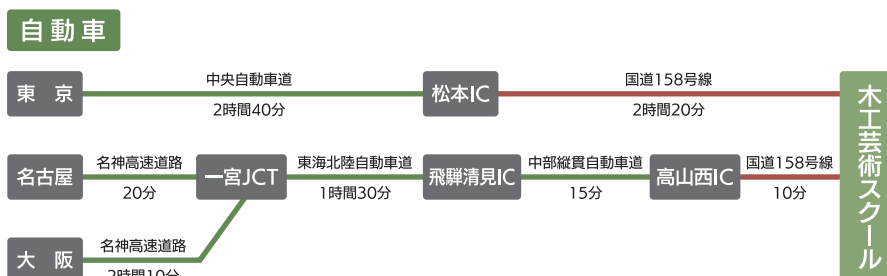
飛騨高山は観光地としてだけではなく、日本有数の家具産地としても有名です。この地の職人によってつくられる、シンプルでモダンな「飛騨の家具」というブランドは、その美しさや高い品質で、日本国内に留まらず世界でも高く評価されています。

「飛騨の家具」の起源は、奈良・平安時代に都の造営で活躍した木工職人たち「飛騨の匠」にまで遡ります。先人たちが磨き上げた高い技術と豊富な森林資源により、木工は飛騨高山を代表する産業となりました。

大正時代から椅子やテーブルなどの脚物家具を製造しており、木を蒸して曲げる「曲木」の技術を生かしたデザインは、現在にも受け継がれています。

さらに今後も「飛騨の家具」のブランドを維持していくため、家具メーカーなどが集まり、「飛騨の家具」について自ら厳しい基準を設定し、商標登録もされています。

ACCESS



最新情報はウェブサイト又は Facebook をご覧ください

当スクールの設備・訓練費用・カリキュラム・主な就職先などを詳しく紹介しています。その他にも、在校生・修了生・事業主へのインタビューなどを掲載しています。



「施設見学」「オンライン入校相談」は随時受付しております

オープンキャンパスの日程が合わない方や、遠方からの来校が難しい方など、是非ご利用ください。事前に申込が必要となりますので、お電話又は申込フォームにてご予約をお願いします。



飛騨高山で 家具職人になる!



訓練期間 **1**年 定員 **30**名

木工芸術スクール とは

飛騨高山の名で親しまれ、古くから木工産業が盛んな岐阜県高山市にある、木製家具製作に特化した岐阜県立の職業能力開発校です。

家具づくりを1から学べるように、まずは手加工実習から始まり、多彩な学科や機械加工実習を経て、最終的には自らデザインした家具を加工・組立・塗装までできるよう、段階的にステップアップしていく訓練カリキュラムを用意しています。全くの未経験者でも、「家具職人になりたい!」という気持ちさえあれば、家具製造の現場で必要とされる様々な技能を、1年間で習得することが可能です。



訓練生30名に対して4名の経験豊富な専任スタッフに加え、家具業界初の「現代の名工」認定者、職人歴40年以上の曲げ木職人、現役の伝統工芸士など、飛騨の木工業界を代表する方々が講師を務めています。

高等学校を新たに卒業した人も、転職や再就職のために入学した人も、家具職人になりたいという共通の志をもって、日々の訓練に取り組んでいます。全国から集まった、年齢・性別・出身・経歴など多種多様な訓練生たちは、飛騨高山という家具づくりに適した土地と、公共施設ならではの充実した環境の中で、技術を磨いていきます。

木工芸術スクールには、70年以上の歴史があります。数多くの修了生たちが、全国の家具メーカーや工房、そして木を生かした様々な仕事で活躍しています。現在では、独立開業を果たした方から直接求人をいただくことも、珍しくありません。また就職支援として、専門家によるキャリアコンサルティング、飛騨の家具メーカーや工房へのインターンシップ・企業説明会などを行っています。



YouTube に紹介動画を公開しています

本当に必要な技能・求められる技能が身に付く!

手加工実習

砥石を使って鉋(かんな)の刃を研ぐところから、1年間の訓練がスタートします。他にも鑿(のみ)や鋸(のこぎり)など、手工具の使い方からメンテナンス方法に至るまでしっかりと学び、接手工作、枠組工作、箱組工作と続きます。手加工の訓練で身に付けた、刃物による切削の原理や木材の扱い方、墨付けや加工手順などの技能は、機械加工に通ずる点も多く、その後の訓練の基礎として非常に大切です。



当スクールでの訓練修了後には、国家検定「家具製作技能士(手加工2級)」の受験資格が得られますが、この手加工実習によって十分に合格可能なレベルの技能が身に付きます。

機械加工実習



様々な木工機械の仕組みや使い方を学びながら、3人1組のグループで実際に箱物(キャビネット)と脚物(丸脚スツール)を製作します。決められた課題に取り組むことで、基本的な家具製作の流れや強度を確保するための構造、高い精度を出すコツや美しく仕上げるためのポイントを学ぶことができます。

この課題の中には「フラッシュパネル」の作り方や「ウレタン塗装」、無垢材の「板はぎ」や「四方転び」の求め方、家具金物やガラスの取り付け方などが含まれており、家具製作をするうえで必ず身に付けるべき大切な技能を、効率よく習得できます。

学科

未経験の訓練生が安全かつ効率的に技能を身に付けられるように、材料・工作法・設計・製図・安全・機械など、様々な学科を用意しています。夏休み前までは、午前の訓練が学科にあてられ、木材の性質や家具の構造、CADによる製図など家具製作に必要な基礎知識から、インテリアデザインに至るまでしっかりと学べます。学科といっても講義ばかりではなく、製材所などの見学や個人製作の設計及び製図、NCプログラミング、キャリアデザインのグループワークなども含まれています。



個人製作

手加工及び機械加工の基礎実技と学科のカリキュラムを終えると、いよいよ個人製作が始まります。これまでに身に付けた知識と技術を駆使して、自分の思いをかたちにできるよう、設計から完成を目指します。製作物は様々で、椅子・テーブル・キャビネット・TVボード・本棚などはもちろん、近年ではダイニングセット・ソファ・ドレッサー・子供用家具・パーテーションなどにも挑戦しました。



個人製作の訓練では、各訓練生の技量や進路にあわせて、設計や加工方法をアドバイスし、1人2~3作品を完成までしっかりとサポートします。充実した設備と、長い歴史の中で蓄積された指導方法により、各訓練生に寄り添ったきめ細かな対応ができることも、当スクールの強みです。

製作したすべての家具は毎年3月の第1日曜日に行う「技能作品展」にて展示し、一般の購入希望者に対して抽選販売をしています。毎年多くの方が来校して、気に入った作品に投票をします。お客様による客観的な評価を得て次に生かすことで、ものづくり人生の1年目が完了します。



Instagramでは日々の訓練風景を投稿しています

椅子づくりに欠かせない「座張り」「縫製」、伝統工芸の「飛騨春慶塗」「ろくろ」、飛騨の家具の特色でもある「曲木」を、専門の講師から直接学ぶことができます。木製家具製作だけではなく、木工という仕事に広く触れる経験が、今後の可能性につながると考えています。実際にこれらの仕事に興味を持ち、修了後の職業選択に大きな影響を受けた訓練生もたくさんいます。



専門実技

設備

一般的に使われている多くの木工機械はもちろん、NCルータや倣い旋盤、全国の職業能力開発校で唯一の曲木設備もあり、訓練の中で様々な加工が経験できます。訓練生それぞれの目標に対応するため、どこの企業でも長く活躍している汎用機械から、新規導入が進む最新機器まで幅広く揃えています。



機械加工室以外にも、ウレタン塗装室・漆塗装室・曲木室・縫製室などの専用実習室や、教室・視聴覚室・パソコン室、そして体育館・グラウンド・寄宿舎などの設備があります。

わかぎりよう 寄宿舎「若技寮」



月額 35,000円
(食費・光熱費込)

定員 8名
(通学困難な若年者優先)



訓練費用

※金額については変更になる場合があります。

入校金 5,650円
授業料 59,400円(年額)
教材費 約 130,000円

求職中の方や転職を希望している方へ

木工芸術スクールは、職業能力開発校です。ハローワークで受講指示を受けると、雇用保険の基本手当等が延長して受給できます。それ以外の方も、職業訓練受講給付金の対象となる場合があります。願書送付前に、必ずお近くのハローワークにご相談ください。